ふれあいと癒しの時空間を過ごさせていただいた(1/8)

ぜひ一度、ご訪問ください。

元職場の入院中の方、職員で作っている短歌会の展示会(明日まで)があることを新聞の「イベント情報」欄で知り、会場の秋保温泉街隣接の住宅地内の「ふれあい小さな美術館」に行ってきた。
手漉きの色紙に書かれたメンバーの数十首の短歌が展示されていた(上、右の写真)。
名前を知る方々の短歌もあり、懐かしさと共に詠ませていただいた。
一番印象に残ったのは、「病院前の　しだれ桜が咲きそめぬ　今年も見れたよ　看護婦さん」の歌であった。
恐らく筋ジスの青年が詠んだのであろう。
余命幾ばくもないことを自覚するだけに翌年の桜をひょっとすると見れないかも……と思っていただけに、「今年も桜を見れたよ」と、職員に話しかける彼の心情を詠ったものであろう。
それだけに、その心情を推測するに余りあるものを感じるだけに……。

短歌展示会もさることながら、会場が何とも癒される空間であった。
コンピューター関連企業に勤務していたご主人が、昨年春に民家を改装し、喫茶店を兼ねてご夫婦が30年以上かけて買い集めた絵画、蓄音機、陶磁器、こけしなどの展示場。
2Fは、美術愛好家らの作品展示に無料で開放しており、今日の短歌会の展示もその一つとか。
ご夫婦とも気品のある気さくな方で、わざわざ我々のために、1929年製のイギリス製の手動蓄音機で、78回転のレコードで「エデンの東」、「慕情」を聴かせてくださった。

数百に及ぶこけしも宮城県内外のものが地区毎に整然と整理展示され、また、陶磁器も伊万里焼き等々、恐らく趣向家には魅力あるものだろうと思う。
更に、民芸の家具も数点あり、壁には見事な欄間も数点、インテリアとして飾られていた。こういう高尚な趣味のご夫婦だけに高貴な気品が漂うのも頷けた。

気ぜわしい気性の自分からすれば、何とも異質な時空間を、喫茶しながら過ごさせていただいた。
正に、名の通り「ふれあい　小さな美術館」であった。
ぜひ一度、ご訪問ください(定休日は水曜日)。

- 「雑学BN」
- 「雑学・フォトアルバム」